

学ぶ

中日新聞教育報道部 ✉ kyoiku@chunichi.co.jp

中村希の
合格
*

コンシェルジュ

この春から受験や子育てについて、読者の皆さんと一緒に考えるコラムが始まりました。私は長野県諏訪市の公立小・中・高校出身で、1浪して東京大理科二類に進学。現在は学習塾の塾長をしながら、10歳、8歳、6歳の3兄弟を子育て中です。早速ですが、受験がこの10年で大きく変わった、という話をさせていただきます。

例えば、大学受験では小論文や面接などで合否が決まる「総合型」「学校推薦型」という選抜方法で進学する生徒数が拡大。高校3年次の12月ごろまでに選抜が実施されることが多く、年内入試とも呼ばれています。今では国・公・私立の大学入学者のうち、半数以上が年内入試を利用しています。経営する塾でも生徒から「年内で決めたい」という声がこの数年でぐっと増加。学力だけでなく、探究心や表現力、「自分の言葉で

何のために受験をするのか

経営する塾に通う高校生⑥と、進路について面談する筆者＝東京都国分寺市で



なかむら・のぞみ 1989年、長野県諏訪市出身。東京大卒。IT企業などでの勤務を経て、第1子出産後に学習塾「みらい塾エイトステップス」を開き、これまでに延べ600人超を指導。著書に「田舎の公立小中高から東大に入った私の勉強法」(平凡社新書)など。

語る力」が問われる時代です。高校受験もがらりと変わりました。以前は2、3月にある公立高入試に照準を定め、多くの中学生がギリギリまで諦めずに戦っていました。この「崖っぷちの頑張り」が生徒を大きく成長させていました。しかし今は、追い詰められる前に私立高を選ぶ家庭が増えています。また、愛知県では公立の中高一貫校が誕生したことも契機に、中学受験への関心が高まっています。受験を取り巻く空気は確実に変わってきています。

ただ、制度は変わっても変わらないことがあります。それは、勉強して学力で挑むことも、自分の得意なことや個性を生かして挑むことも、両方立派な受験の形だということ。どちらの方法でも受験を通じて、自分で考え、自分で答えを出すという力は必ず育ちます。この力がこそが、人生で本当に役立つものだと思っています。だからこそ、問いたいです。「何のために受験をするのか」と。

受験はゴールではなく通過点です。どんな人でありたいか、どんな人生を歩みたいかを考える絶好機なんです。それらを思い描き、そこから逆算して受験の方法や進路を選んでほしいのです。このコラムがそのヒントになればうれしいです。一緒に、ワクワクする未来の話をしていきましょう。